

学科近況

今年の高専祭はいかがだったでしょうか。メディア情報工学科の学生も知恵を絞って、面白い出し物を制作し頑張りました。また、同時に第2回目の保護者と教員の懇親会も合わせて開催致しました。いろいろなお意見をいただきました。学校と家庭の距離を近づけるためにもメディア情報工学科全教員意識を新たに学生のための教育を進めてまいります。

12月3日から6日まで後期中間試験がありました。成績のいい学生あまりよくない学生も期末に向けて一層勉学に励むことでしょう。

前期終了時に福井高専に転任された奥田助教の後任として、佐藤助教が10月から授業を担当しております。本人の自己紹介も本学科だよりに記載されていますのでご覧ください。

4年生は進学か就職かを決定する時期にきています。担任の太田先生との三者面談を交えて、ご家族で十分に進路決定されるようお願い致します。3年生は西村先生を中心に進路相談など対応しております。来年度のインターンシップなど社会体験もあり、充実した学生生活を過ごせるように全教員一丸となって努力してまいります。

メディア情報工学科について、ご意見などお寄せください。保護者からのご意見を取り入れ学生の教育環境を充実してまいります。

(学科長:水野正志)



各学年の話題(4年生)

学級近況

だんだん遅刻や欠課、欠席が目立つ学生が増えてきました。定期試験直前にあわてて勉強するのではなく、普段から積極的に授業に参加し、努力を積み重ねていくことが大切です。アルバイトなどで睡眠不足の学生も見受けられますが、体調管理に気をつけて生活してほしいと思います。

インターンシップについて

県内外で数週間にわたった企業実習を全員、無事終了することができました。企業側担当者の学生への評価は高く、担任としてはホッとしています。学内では10月3日(水)に「インターンシップ報告会」があり、クラス全員が実習内容や感想を発表しました。インターン

シップでの経験がどこかの場面で役立てば嬉しく思います。



「インターンシップ報告会」終了後に記念撮影・笑顔がいっぱいです

高専祭について

「萌えざかりの君たちへ ヨタメン♂パラダイス」というドラマ仕立ての映像作品と、高専祭のテーマである「エコ」にちなんだ短い作品を制作しました。9月中にクラス全員の配役と大まかな台本が決まり、後学期開始から1ヶ月間、放課後を利用して校内での撮影と編集作業を進めました。監督や演出、編集を担当する学生達を中心にクラス全員が大きく関わり、楽しい作品に仕上がりました。2日間の高専祭で11回上映し、ほとんどの回が満席になるくらい多くの方に見ていただきました。



高専祭での学生力作のポスター

進路について

大学3年次編入志望の場合、今後の、特に春休みの受験対策が合格の鍵となります。志望大学の過去問題を手にいれ、試験科目や出題範囲を確認しましょう。また、複数の大学を受験することを予定している場合は、試験日程や合格発表日程などを調べ、無理のないスケジュールかどうか検討しておいてください。試験科目や出題範囲は1~3年生で学習した内容が多いと思います。持っている問題集を復習することで、今日からでも受験対策を始めることができます。受験先を決められず悩んでいる学生もいると思いますが、できることから行動に移しましょう。

就職については、多くの会社説明会に参加することで「どういうところに就職すればよいかわからない」という悩みも解消するかもしれませんが、1月9日には那覇市で行なわれる沖縄高専4年生を対象とした県内企業合同説明会に参加しますので、自分の思い込みにとらわれず多くの企業の説明を聞いてもらいたいと思います。就職活動は基本的に学生個人で行います。「就職活動なんてめんどろ」と考えず、積極的に行動してください。

本校では沖縄県キャリアセンターから派遣された「就職活動のプロ」による相談会が定期的に開かれています。エントリーシートの書き方、自己分析をはじめ個別に相談にのってくれますので、上手に利用してください。

第5学年への進級について

第4学年の課程の修了は、

- (1) 定められた必修科目や選択科目を履修していること(科目の年間総授業数の3分の2位以上出席しないと、履修したと認定されません)
- (2) 修得すべき科目の単位を全て修得していること(必修科目やいくつかの選択科目に合格していること)
- (3) 出席日数が年間総授業日数の3分の2以上と定められています。(2)については、未修得(不合格)の科目が10単位以内であれば、第5学年に仮進級します。

(1)、(2)、(3)のいずれかが満たされなければ原級留置となり次年度も第4学年となります。第4学年と第5学年はいわゆる「学年制」ではないので、すでに合格した第4学年の修得科目は次年度も有効となり、未修得(不合格)科目だけを履修することが可能です。正確には学生が持っている緑色冊子「学生生活のてびき」80ページ以降をご覧ください。

(4年学科担任:太田 佐栄子)



各学年の話題(3年生)

学級近況

後学期は高専祭の準備からはじまりました。3年メディアでは、舞台でのバンド演奏とダンス、またその練習風景を記録したビデオ作品づくりに取り組みました。多くの学生が企画や準備を楽しんでいたように見えますが、準備の時間が少ない中苦労も多かったようです。いずれにせよ、高専祭がよい思い出となり、残りの学生生活を共に過ごすクラスメイトとの友情を少しでも深めるきっかけになればと願っています。

後学期に入ってから、遅刻や欠課が増えてきています。もともと

これらの多い学生、また増える傾向にあるのは、一部特定の学生ですが、クラス全体の雰囲気にも影響しますので、減らしていくように指導したいと考えています。お子様の成績通知表をご覧になる時は、点数だけでなく欠課・遅刻の欄(特にその増減)についても確認をしていただきたいと思います。遅刻・欠課が多い場合には、健康管理について、生活の様子(特に寮外生)について、ご家庭で話し合っていたいただきたいと思います。

「若い内は元気で普通」という風に考えがちですが、特に持病がなくても体質には個人差があり、疲れやすい、風邪をひきやすい、眠れない、目覚めが悪い、頭痛、アレルギーなど、若い内から健康上の悩みを抱える人は決してすくなくありません。また、悩み事などが大きくなり「気分がすぐれない」という範囲を超えると、まず身体の不調として現れると言われています。「なんだか調子が悪い」「疲れた」というお子様からのメッセージを見落とさず、原因をそれとなく探ってみてあげてください。

県外インターンシップ交流会について

4年生になるとインターンシップという科目が必修になります。今年、一期生がはじめてインターンシップに出ましたが、その反省も踏まえ、二期生からは3年生の内からインターンシップの事前教育を始めることになっています。来る1月19日(土)には沖縄県キャリアセンターが主催する県外インターンシップ交流会があり、学校としても寮から参加する学生をバスで送迎するなどサポートを予定しています。県外希望者に限らず参考になると思われまので、できるだけ多くの学生に参加してもらいたいと考えています。同封のポスターを参考に、ご検討下さい。先着100名・各自直接申込となっていますので注意して下さい。なお、インターンシップ関連の行事ではスーツ着用が原則です。冬休みが明けて学生が次に学校へ戻る際には出かけるだけ、特に交流会に参加する学生には必ずビジネススーツ一式を持たせて下さいますようお願いいたします。スーツであれば古着でも、継ぎ接ぎがあってもまったく差し支えありませんが、どんなに上等でもジーンズやスニーカーは駄目(因みに、茶髪やピアスも禁止)ですので気をつけて下さい。

3年から4年への進級要件について

3年から4年への進級については、(1)2年生までの科目をすべて履修していなければならない、(1)仮進級が認められる単位数が4単位(他学年では10単位)まで、と要件が厳しくなっています。学生本人が合格できるよう勉強することが原則ですが、試験の成績については、再試験などの救済策が講じられる場合もあります。「授業内容が難しすぎる」「授業の進め方が自分に合わない」という学生からの悩みもよく耳にしますが、その場合でもまずは学生自身が担当教員に相談することがスタートです。教員にはすべての学生に

平等に対応する義務と責任があります。苦手な科目ほど、粘り強く質問に行ってください。「もうこの科目は捨てる」「再試験の届けを出し忘れた」「期末でなんとかなるだろう」といういい加減なことのないようにして欲しいと思います。

用語解説「3年次修了」

高専では3年まで修了して退学すると大学などを受験することができます。これは「3年次修了」と呼ばれています。法律には明記されていませんが、高等専門学校第3年次修了者は学校教育法第56条第1項に規定する「通常の課程による12年の学校教育を修了した者」に該当し大学入学資格を有する、とする国の見解(昭和42年に秋田大学学長からの問い合わせに対する当時の文部省大学学術局長の回答)にもとづいています。ただしこの場合、最終学歴は中学校となりますので、就職などの際には高校卒業との違いについて注意する必要があります。

(3年学科担任:西村篤)



新任教員紹介

佐藤尚(助教)

今年の10月より助教として着任いたしました佐藤尚(さとうたかし)と申します。私は、2005年3月に博士学位を取得後、同年4月より、独立行政法人科学技術振興機構沖縄大学院大学先行的研究事業(現・独立行政法人沖縄科学技術研究基盤整備機構大学院大学先行研究プロジェクト)の常勤研究員として、脳の学習機構を理論、コンピュータ、ロボット、動物実験など様々な道具・方法を用いて研究する神経計算ユニットに所属していました。ここでは、原初的なコミュニケーションが、どのような能力を持った個体間で、どのようにして生まれたのか?という、学習と運動が密接に関係する言語の起源に関する研究に従事していました。沖縄高専では、1年生を対象とした「情報技術の基礎」と3年生を対象とした「コンピュータアーキテクチャ」という2つの講義を担当しています。また、来年度からは担当講義も増え、さらに「卒業研究」の指導も担当することになります。

卒業研究では、私の専門分野である「複雑系(Complex Systems)」に関する研究を卒研究生1人1人に1テーマずつ(内容によっては2人で1テーマ)行っていただきます。複雑系は、人が社会を作りその社会が人に影響を与え、またその社会が変わりうるといった部分と全体が互いに影響し合う関係にあってそれぞれを分離しては考えられないようなものことで、他に、生命、認知、経済、そして言語など様々なものが複雑系研究の対象となっています。

私の研究室では、このような複雑系の中から理解したい対象を卒研究生に見つけていただき、その理解したい対象の元となるシステムを「作り」、それをコンピュータシミュレーションやロボット実験により「動かす」ことを通してその対象を理解する「構成論的手法」を用

いて複雑系の起源と進化、発展の謎に迫ります。

学生の皆さんには、コンピュータやロボット実験が新しいリアリティの生成の場であり、それらを解析することによって新しい発見へと繋がるということを大きな楽しみとして感じてもらえるよう、一教員として努力していく所存です。



教員の横顔

来年度に学校が完成を迎えるまで、学生は毎年多くの新任教員と接することになります。紙幅に限りはありますが、教員が沖縄高専に来るまでの話など教員の知られざる素顔をエッセイ風の読み物として紹介します。

中央アフリカ共和国から日本への道 バイティガ・ザカリ

みなさん、こんにちは。今年の4月に着任したバイティガ ザカリです。日本語と同様に、バイティガが名字でザカリが名前です。中央アフリカ共和国の出身です。私が中央アフリカにいるとき持っていた日本のイメージは、発達した国で、サムライやニンジャがいて思っていました。しかし実際日本に来て私の日本のイメージは大きく変わりました。なぜかというと、私たちが映画で観ていたサムライやニンジャが、実際の日本にはいなかったからです。

中央アフリカというと、中央アフリカ地域を指す言葉だと思っている方もいますが、中央アフリカ共和国はその名前の通り、アフリカ大陸のほぼ中央にある1つの国です。海を見ない内陸国で、カメルーン、チャド、スーダン、コンゴ共和国、コンゴ民主共和国(旧ザイール)など5つの国と国境を接しています。

中央アフリカ共和国はフランスの植民地だったため、公用語はフランス語ですが、フランス語だけではなく現地語もあります。その現地語は「サンゴ語」です。学校や仕事場ではフランス語を使い、家ではサンゴ語を使います。ただ、大人になっても95cm~1mにしかならないピグミ民族だけは、中央アフリカの中でも特別な社会を作っています。ピグミ族の言葉は私達にも分かりません。また彼らは、砂糖、胡椒、服や靴を一切受け付ません。

中央アフリカ共和国の国旗は、青、白、緑、黄、赤の5色で構成されています。「青」はナイル川に注ぐバンギ川を意味します。「白」は中央アフリカ共和国の農産物の綿を意味します。そして「緑」は森を表し、「黄色」はダイヤモンドと銀で、中央アフリカの石産出物を意味します。最後に「赤」は独立のシンボルです。



アフリカの気候はというと、みなさんは赤道の近くでめっちゃくちゃ暑い、というイメージがあるかもしれませんが、中央アフリカの平均

温度は25度で四季はなく、1年は大きく「乾季」と「雨季」に分けられます。また「雨季」と言っても日本の「梅雨」のようなイメージはなく、1日の中で短時間に多量の雨がスコールのように毎日降る期間です。主食は日本と同じように米も食べますが、キャッサバ芋です。内地にいるとき、日本でキャッサバを見ることは出来ないだろうと思っていたのに、沖縄に来て普通に畑にキャッサバが植えられているのを見て驚くとともに、とても嬉しかったです。



その他学科内の話題

資格試験

情報処理技術者試験(10月21日実施)合格者

ソフトウェア開発技術者:上原龍生(3年)、基本情報技術者:津波古渉太(2年)、森岡駿(3年)、山本宗章(3年)、儀間仁(4年)、國吉真春(4年)、鈴木裕太(4年)、砂川茜(4年)、赤崎愛(4年)、平敷善太郎(4年)、真境名佑介(4年)、宮里貴紀(4年)、宮原彬(4年)。初級システムアドミニストレータ:上原真矢(2年)、大城潤(2年)、我那覇隆哉(2年)、久貝美奈子(2年)、比嘉恵介(2年)、諸見里圭太(2年)、山内祥平(2年)、稲嶺友理香(3年)、遠藤隆将(3年)、賀数恵太(3年)、黒田千亜希(3年)、下地寿弥(3年)、仲西亮平(3年)、西江涼(3年)、比嘉道成(3年)。

お詫び:メディア情報工学科だより通巻4号においてインターネット検定の合格者の中にシングルスターを合格した比嘉恵介君(2年)が抜けていました。お詫びして訂正します。

(正木忠勝)



認定証を手に喜びの表情の学生

プロコン

10月6,7日に岡山県津山市で開催された全国高等専門学校プログラミングコンテスト(プロコン)にメディア情報工学科から競技部門に砂川茜(4年)、松田遼子(4年)、金城尚志(3年)、山本宗章(3年)、知念佑奈(2年)、清末尊(1年)のチーム「3年め組」が出場し、特別賞を受賞しました。1回戦、2回戦をグループ

1位で勝ち上がり、決勝戦では5位の成績でした。

(正木忠勝)

ロボコン

10月21日長崎県佐世保市で開催されたロボコン九州・沖縄地区大会において沖縄高専Aチーム「メーヴェ」が準優勝し、2年連続の全国大会出場の切符を手に入れました。を勝ち得ることができました。11月25日の東京での全国大会では初戦で敗退したものの特別賞を受賞することができました。メディア情報工学科からは、上原龍生(3年)、栗秋太一(3年)、白崎史子(2年)、久米剛弘(1年)が参加しました。

(正木忠勝)

パソコン甲子園

11月10,11日に福島県会津市で開催されたパソコン甲子園2007(第5回全国高等学校パソコンコンクール)のデジタルコンテンツ部門において渡嘉敷拓馬(メディア情報工学科2年)、安里高祐(情報通信システム工学科2年)のチーム「OSO」の作品「コロタのゆめさがし」が見事グランプリを受賞しました。また、いちまいの絵CG部門においても渡嘉敷拓馬君が優秀賞を受賞し、ダブル受賞となりました。パソコン甲子園のホームページでは入選作品を閲覧することができます。

パソコン甲子園 2007 公式ウェブページ
<http://www.pref.fukushima.jp/pc-concours/index.html>

(CG同好会顧問:タンスリヤボン・スリヨン)



編集後記

「メディア情報工学科だより」は、3学年以上の学生をお持ちの家庭を対象に、試験の成績通知に合わせて発行している学科通信です。一期生が3学年となった昨年度に刊行し、今号で丁度1年目を迎えました。学科通信に関するご意見ご要望などがありましたら、編集担当(西村篤)までお寄せ下さい。

【編集担当者連絡先】

〒905-9021 沖縄県名護市辺野古905
独立行政法人国立高等専門学校機構 沖縄工業高等専門学校
メディア情報工学科 西村篤
TEL: 0980-55-4003 (代) FAX: 0980-55-4012 (代)